

花嫁衣装の「国際エクスプレスメール」

2000年9月28日

西條辰義

グアムでの挙式のために花嫁衣装を郵便局の「国際エクスプレスメール」でウエディングドレスをホテルに送ったところ3週間以上かかり、式に間に合わなかったという記事を今朝みた。国に賠償を訴えたが、敗訴したのだそうだ。

私も何年前に、大事な書類を郵便局の「国際エクスプレスメール」でアメリカに送ったものの3週間近くかかったことがあった。郵便局に通常のエアメールと変わらないのだから、「国際エクスプレスメール」とエアメールの料金の差額を返して欲しいと頼んだが、それはできないといわれた。

それ以降、ほんとうに急ぐものは、フェダラル・エクスプレスなどの民間の国際宅急便を利用している。そうだからといって「国際エクスプレスメール」を使わなくなったのではない。エアメールよりも高いが、フェダラル・エクスプレスなどよりも安い「国際エクスプレスメール」を使う理由がある。それは、「国際エクスプレスメール」が早くつこうがつくまいが、私が「急いだ」ことを相手に伝えるためにわざわざ「国際エクスプレスメール」を使うのである。

「はやくつく」という印象のみが「国際エクスプレスメール」の利点だとするならば、料金をもっとさげて欲しいものである。